

<事務局便り>

平成21年度炉物理部会運営委員

氏名	役職	所属
肥田 和毅	部会長 (任期1年)	グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン
吉田 正	副部会長 (任期1年)	東京都市大学
中 隆文	庶務幹事 (任期1年)	グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン
羽倉 尚人	庶務幹事 (任期2年)	東京都市大学
岩崎 智彦	部会等運営委員会担当運営委員	東北大学
北田 孝典	編集委員会担当運営委員	大阪大学
森 貴正	シグマ委員会担当運営委員	原子力機構
奥村 啓介	HP 担当幹事	原子力機構
小嶋 健介	HP 担当幹事	原子力機構
卞 哲浩	財務小委員会担当幹事	京都大学
左藤 大介	財務小委員会担当幹事 (任期2年)	三菱重工業
渡邊 将人	編集小委員会担当幹事 (任期1年)	中部電力
根岸 孝行	編集小委員会担当幹事 (任期2年)	原電情報システム
吉田 正	セミナー小委員会担当幹事 (任期1年)	東京都市大学
羽倉 尚人	セミナー小委員会担当幹事 (任期1年)	東京都市大学
伊藤 卓也	学術交流小委員会担当幹事 (任期1年)	原子燃料工業
千葉 豪	学術交流小委員会担当幹事 (任期2年)	原子力機構
大岡 靖典	学生・若手小委員会担当幹事 (任期1年)	原子燃料工業
佐野 忠史	学生・若手小委員会担当幹事 (任期2年)	京大炉

編集小委員会からの御願

部会報に対するご意見・ご要望などがございましたら、編集小委員会までお知らせ下さい。また、部会報の原稿として、「部会員の声（自由投稿欄）：内容不問で自由に投稿・意見を述べられる場」を常時募集しています。また、部会ニュース（ホームページに掲載）の原稿もございましたらお知らせください。

連絡先：編集小委員会（会報担当）

渡邊 将人 Watanabe.Masato@chuden.co.jp

根岸 孝行 t-negishi@gisc.co.jp

炉物理部会員の名簿は、日本原子力学会の名簿に基づいて作成しております。学会名簿は、部会報の郵送、部会メーリングリストの発信先Eメールアドレスなどに使用されます。勤務先、メールアドレス等に変更がある場合には、速やかに日本原子力学会に登録情報の変更手続きをして頂くようお願いいたします。変更手続きは、以下のURLからオンラインで申請が可能です。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/aesj/member/henkou.html>

日本原子力学会炉物理部会第31回会員総会 議事録

平成21年4月14日

日時 平成21年3月24日(火) 12:00 ~ 12:55

場所 東京工業大学(日本原子力学会2009年春の年会K会場)

配布資料

- 日本原子力学会炉物理部会第31回会員総会 議事
- 31-1:平成20年度 炉物理部会収支報告
- 31-2:平成21年度 炉物理部会運営委員交代(案)
- 31-3:平成21年度 炉物理部会収支予算案
- 31-4:炉物理部会 平成21年度夏期セミナーの開催予定(案)
- (国際シンポジウムの案内) Symposium on Reactor Physics and Nuclear Data -Recent Progress for Advanced Reactors-

議事

平成20年度下期の活動報告

1. 炉物理・核データ部会の日韓合同・企画セッションの開催
炉物理・核データ部会合同および日韓合同の企画セッションを2009年春の年会で開催(3月25日 12:30-14:00 K会場、発表5件)することが、松村部会長から報告された。
2. 炉物理・核データの国際シンポジウムの開催
炉物理・核データの国際シンポジウムを東京工業大学 国際交流会館本館にて開催(3月26日 9:00-16:50)することが配布資料(国際シンポジウムの案内)をもとに本シンポジウムの山本幹事から報告された。
3. 「次世代炉物理実験施設活用方策検討会」の活動
炉物理部会の「次世代炉物理実験施設活用方策検討会」活動概要等について本検討会の岩崎主査から報告された。原子力学会の「アクチノイド・マネジメントに関する炉物理実験施設」研究専門委員会と合同で今年度4回開催された。来年度も継続して開催する予定であり、検討会としての将来に向けての提言を出していくとの説明があった。
4. 「炉物理の研究」第61号の発刊
炉物理部会報「炉物理の研究」第61号は平成21年3月に発刊されたことが、東條編集小委員会担当幹事から報告された。本部会ホームページにて閲覧できる。
5. 平成21年度原子力学会フェローの推薦
原子力学会フェローに炉物理部会から代谷 平成19年度部会長(京都大学)を推薦し、学会で手続き中であることが、松村部会長から報告された。

6. 原子力学会誌 50 周年記念号に記事掲載

原子力学会 50 周年記念号 (平成 21 年 4 月号) に「炉物理部会」部会活動報告が掲載される事が松村部会長から報告された。記事の執筆に当たっては、原子力安全研究協会の松浦氏及び JAEA の森氏に御協力、御寄稿頂いた。

7. 平成 20 年度決算の報告

平成 20 年度炉物理部会決算案が配布資料 31-1 をもとに異財務担当幹事から報告された。JAEA からの賛助金により余剰金が生じたこと、それを平成 21 年度に繰り越し、旅費交通費の一部として支出することなどの説明があった。繰越金について、これまでの経緯、学会事務局からの通達、今後の扱い方針などが議論された後、本決算案は出席者全員の拍手を以って承認された。

平成 21 年度の活動計画

8. 平成 21 年度炉物理部会運営委員の選出

平成 21 年度炉物理部会運営委員案は配布資料 31-2 をもとに松村部会長から報告され、出席者全員の拍手を以って承認された。

これを以後の議事進行は平成 21 年度運営委員が実施した。

9. 平成 21 年度予算の報告

平成 21 年度炉物理部会予算案が配布資料 31-3 をもとに下財務担当幹事から報告され、平成 20 年度の繰越金の一部を平成 21 年度の旅費交通費に充てることなどの説明があった。本予算案は出席者全員の拍手を以って承認された。

10. 第 41 回炉物理夏期セミナーの企画

平成 21 年度炉物理夏期セミナーの企画案は配布資料 31-4 をもとに吉田セミナー担当幹事から報告された。今回のテーマ設定の趣旨と開催場所(熱海)選定の理由、夏期セミナー用に銀行口座の開設、日程(8/3~8/5)等¹が説明された。本企画案は出席者全員の拍手を以って承認された。

11. 平成 21 年度炉物理部会賞の計画

平成 21 年度(第 3 回)炉物理部会賞について、実施計画が肥田部会長から述べられた。5 月の連休明け頃に募集を開始し、7 月頃に締め切り、その後、選考、決定し、2009 年秋の大会時の会員総会にて表彰する予定。

12. 原子力学会関連委員会からの報告

学会の公益法人化準備に伴い、会計処理が厳しくなっており、領収書の受領および予算変更・執行時等の事前確認を確実にを行うよう要請されていることが、岩崎部会等運営委員から説明された。特に変更・執行時において、関係者は事前に財務担当幹事と学会事務局に良く相談の上、手続きの確認、部会内(運営委員会)での連絡・承認などを確実に行うことが必要である。

¹「第 1 回原子力発電国際サマースクール・若手ワークショップ」と日程の一部が重複している。

13. その他

2009 年秋の大会の企画セッションは 4 月末までに各部会から提案する必要があり、肥田部会長から企画案の提出が要請された。

平成 21 年度も「炉物理の将来展望に関する討論会」を、平成 20 年度の第 1 回で示されたテーマなどをもとに継続したいとの提案が肥田部会長からあった。

そのほか、出席者から以下の紹介があった。

- 世界初陽子加速機による ADS の成功の紹介 (卞氏)
- JAEA での炉物理研究部門統合 (岡嶋氏)
- SNA2010+MC2010 の開催案内 (長家氏)



平成 20 年度 松村部会長



平成 21 年度 肥田部会長

以上

日本原子力学会炉物理部会第 32 回総会議事録

平成 21 年 10 月 5 日

日時：平成 21 年 9 月 16 日（水）12:00～12:55

場所：日本原子力学会 2009 秋の大会 G 会場（東北大学 マテリアル・開発系講義棟 第 5 講義室）

配布資料

- 32-1：炉物理部会関連内規の一部改訂の提案と報告
- 32-2：平成 21 年度炉物理部会収支予算案
- 32-3：平成 21 年度（第 3 回）炉物理部会賞の報告
- 32-4：第 41 回炉物理夏期セミナー実施報告
- 32-5：炉物理部会 2010 年度日韓学生・若手セミナー等の活動計画について
- 32-6：2010 年 3 月発行予定の炉物理ニュース「炉物理の研究」（報告）

議事

1. 炉物理部会内規の一部改訂 (配布資料 32-1)
日本原子力学会「炉物理部会」内規に対する、部会費の記載内容、一部の運営委員の名称および選出方法等の改訂が肥田部会長より提案され、審議の結果、原案通り承認された。
また、炉物理部会運営委員会内規に対する同様の改訂について、運営委員会にて承認された結果が報告された（本内規の改訂は総会での議決事項ではない）。
2. 平成 21 年度予算 (配布資料 32-2)
第 31 回総会で承認された平成 21 年度予算案に対して、学会理事会からのコメントを反映した修正案が本運営委員から提案され、審議の結果、原案通り承認された。
3. 平成 21 年度（第 3 回）炉物理部会賞の報告 (配布資料 32-3)
今年度は応募がなく受賞なしとなったことが、募集経緯と共に、肥田部会長から報告された。また今後の対策について、運営委員会からの推薦、応募方法の簡略化、他部会での選出方法の参照、などの意見が出された。部会賞選考は学会理事会から透明性を求められていることから選出方法は慎重を期すべしとの指摘もあり、引き続き運営委員会で検討することとなった。
4. 第 41 回炉物理夏期セミナーの報告 (配布資料 32-4)
8 月 3 日～5 日に開催された炉物理夏期セミナーの概略が、羽倉セミナー幹事から報告された。例年並みの 63 名が参加し盛況に行われた。決算は、確定していないため、別の機会に報告される。また、テキスト残部の学会事務局預かりが 5 部に制限されたため、テキスト印刷部数を減らすべきという申し送りがあった。
さらに、次年度の夏期セミナー幹事は三菱重工殿に引き受けていただく予定であることが、肥田部会長より紹介された。

5. 日韓学生・若手セミナー等の活動計画 (配布資料 32-5)

2010年度日韓サマーセミナーが韓国で開催(主催は韓国側)される予定であり、炉物理+放射線工学+加速器・ビーム科学+核データの4部会が参加することになる見込みであることが、伊藤運営委員から紹介された。

6. 炉物理部会報「炉物理の研究」 (配布資料 32-6)

2010年3月発行予定の第62号作成の進捗状況の報告と記事の募集が、渡邊運営委員よりなされた。研究会報告の執筆について、東北大学岩崎先生の快諾をいただいた。一方、特集記事については、炉物理部会報という位置づけからあまり産業界寄りの記事は適さないのではないか、部会企画セッションを記事としてはどうかとのコメントが出され、引き続き検討することとなった。

7. その他

出席者から、以下の国際会議の案内が行われた。

- GLOBAL2011 2011年9月4日～9日、愛知県にて。
- SNA+MC2010 2010年10月17～20日、東京一ツ橋記念ホールにて。
- ICONE18 2010年5月中旬、中国西安にて。
- PHYSOR 2010年5月第二週、米国にて。
Abstractなしで最初からfull paperでの投稿となる。10月末〆切。
- FR09 2009/12/6-12/10、京都国際会議場にて。
参加にはIAEAの事前許諾が必要となる可能性があるため確認が必要。

以上

編集後記

平成 21 年度の編集が終わり第 62 号を会員の皆様のお手元に届けることができ、原稿の執筆にご協力していただいた方々に心から御礼申し上げます。

特集記事については、九州電力様のご協力によりたいへんホットな話題である「玄海 3 号プルサーマルの炉物理検査」をご提供いただきました。ステークホルダーとの微妙な関係から、実炉試験データをはじめ参考になるはずの苦労話もなかなかオープンにすることができない中、いろいろ工夫をして頂きありがとうございました。

さらに、テプコシステムズ様におかれては、「炉物理とバックエンド」で貴重な情報提供をいただきありがとうございました。お二人様のおかげで、たいへん興味深い特集記事となったと思います。

これらの特集記事の企画を考える際に、炉物理部会のホームページに掲載されている昭和 38 年から「炉物理の研究」と「炉物理ニュース」を参考にさせていただきました。古い時代の記事は、ワープロではなく手書きであり、執筆者の個性がそのまま表現されているかのように思われます。これらの過去の記事は、お恥ずかしい限りですが、編集小委員となるまでまったく読みませんでした。特集記事を企画するにあたり、参考になればと初版から現在まで斜め読みした訳ですが、過去の特集では、アンケートを取り分析結果を報告、あるテーマを何十人にももの方に執筆してもらうなど、興味深いテーマがたくさんあることが分かりました。ぜひ、炉物理部会の編集小委員にならなくてもご一読をお薦めいたします。

最後に、私事で恐縮ですが、社会人も 12 年となりましたが、分かりやすい文書作り・分かりやすいプレゼンテーションに今もって格闘しております。仕事について高度に専門化されれば、上司の知らない分野を担当することもあり、このような状況下でも要領を得た分かりやすい報告をする必要があります。それができなければ、会社人生も厳しいものになると思われまふ。小生も最近になって博士論文をまとめる際に指導教官に厳しい愛のコメントをたくさん頂き、文書作成やロジカルに思考する技術向上をいかに怠っていたことを痛感したしだいです。さらに、先日の安全研究フォーラム 2010 にて、コミュニケーションを専門とするある先生が、「専門家が一般人などに対してある情報を伝える際に、専門家自身がたいへん重要または有益であると思っていればいるほど説明する際に、説明における手抜きや省略が発生しやすくなる」と指摘されドッキとてしまいました。無意識の慢心かもしれません。ということで初心に戻って仕事に精進したいと存じます。

(渡邊 将人 記)